



「桜梅桃李」という言葉が好き!

それぞれ可憐に咲き使命を果たしながら人々の心を和ませてくれる花・花・花。

一人ひとりが今、居る場所で自分らしく生き、自分らしく「きらきら」と輝いていける21世紀でありたい…。

# きらきら

第27号

今、ひとりひとりが…

## おやこ 父子料理教室を 開催しました!!

11月10日(土)



### クローバーの会による 「市長と話す会」

が行われました。

詳しくは次のページで!!

今年は 12 組のお父さんとその子どもたちに参加していただき、にぎやかな教室になりました。子どもとお父さん、またとなりのお父さん同士で相談しながら、和やかな雰囲気で作業が進められました。

## ~女性に対する暴力防止セミナー~

11月18日(日)

伊賀市のDV相談の現状が担当者から報告され、そのあと市民グループ「ポップ会」「伊賀市子育てインストラクター “スマイル母 (ママ)”」のメンバーによる朗読劇「ひまわり～DVをのりこえて」が行われました。最後に東北大学大学院教授の沼崎一郎さんによる講演『なぜ男は暴力を選ぶのか～DV加害者の実像と対策』が行われ、「DVは犯罪で、子どもの健全な心身の発達を阻害するものである」と力強く語られました。



開催決定!!

## いきいき未来いが2013

三重県内男女共同参画  
連携映画祭2013

とき 平成25年6月8日(土)

ところ ハイピア伊賀5階多目的大研修室ほか

☆講演会のほか楽しい企画を考えていますので、ご期待ください!!

とき 平成25年6月15日(土)

ところ ふるさと会館いが

上映作品は「メリダとおそろしの森」です。  
お楽しみに。

詳細は、後日配布するチラシ等でお知らせします!

# 男女共同参画ネットワーク会議会員 紹介 「クローバーの会」



伊賀市の「男女共同参画基本計画」に基づき、政策方針決定や各種役職への女性登用などあらゆる分野での男女共同参画推進の役割を担う女性リーダーを養成する講座「女性リーダー養成連続講座(人権政策・男女共同参画課主催)」の修了生で結成。すでに職場、地域で活動をする人、これから女性リーダーとして活躍したいと思っている人など、21人がお互い交流をして高めあって行こうと昨年、発足したグループです。活動の手始めとして、女性の意見、要望を市長に聞いてもらい、市長の考えを伺いたいと、1月17日(木) ハイピア伊賀4階にて「クローバーの会」メンバーを中心に、岡本伊賀市長と話す機会を得ました。



## ～市長と話す会 主な内容～

Q 1. 伊賀市の女性の印象を聞いてみました。

A. 女性のパワーのすごさを伊賀でよく感じています。

住民自治の地域おこしで、地元野菜を使っでの活動、配食サービスや、地域の空き施設を利用したの福祉活動など見ていると感じます。女性の普段からのネットワークは、複層するチャンネルを持ち、結びつきがある。一途な姿勢、がまん強いところがすごいと思います。

Q 2. 市民目線のまちづくりを推進していくために、女性目線の生活者の視点から、まちづくり・地域づくりについて提言できる「伊賀市女性まちづくり会議」の設置を検討していただけないでしょうか。

A. 「女性目線のまちづくり」興味深い提言です。すぐにすすめたい話ですが、今ある組織のことや、またその会議の位置づけなどを詰める必要があると思います。関係部署などと話をし、実現の方向で考えていきたいと思っています。



Q 3. 元気な伊賀のまちづくりに、どんどん女性の意見を反映していきたいと考えています。自治協や地域の意思決定の場への女性の登用の推進をどう進めるとよいと思われますか。

A. 地域性、習慣とあきらめず、女性が遠慮しないで積極的に参画してほしい。それには、家族の協力も不可欠です。家庭での理解、環境づくりをして出てきてほしいです。



Q 4. 女性の積極性も大事です、しかし意見を言う機会や場所がまだまだ無いように思います。女性が発言しやすいように、定数を複数（例：男1女1）にして、地域から輩出するよう行政が働きかけることが必要だと思います。

A. 女性の背中を押すのが行政の役割、なんらかの方法を考えていくことが大切だと考えています。



Q 5. 現在、各支所長は男性。地域の問題を女性目線（女性の支所長）で住民の要望などにこたえてほしいです。

A. 実際、たくさんの女性管理職ががんばっています。市役所や学校は男女をこえて活かせる職場です。人数としてまだまだ少ないので、増やす努力をします。

Q 6. 一人で、子育てに悩んでいる方も多いかと思われます。「おせっかいな近所のおばちゃん、おっちゃん」のような存在が必要だと考えます。地域ぐるみで子どもを見守る伊賀市になってもらいたいです。

A. 子育てに限らず、高齢者に対しても、地域ぐるみの活動が大事になる、いい近隣社会を作る努力が大切。いい子育てができるのでは…。「見守りおばちゃん」と頼る感じの呼び方で関わって頂けたらと思います。

## ● 内閣府実施の世論調査で判明

ある日何気なく新聞をめくっていると、『夫は外、妻は家庭』支持増加の見出しを見つけ、思わず手が止まりました。内閣府が今年、3年ぶりに実施した「男女共同参画社会に関する世論調査」の結果から、「夫は外、妻は家庭」という考え方に賛成する人の割合が、1992年の調査開始より初めて増加に転じた、というのです。しかも、増加が目立ったのが20代であった、ということでした。

## ● なぜ「妻は家庭」を望む？

「妻は家庭」を望むのは、決して昔からある固定的性別役割分担意識からではなく、女性の働きづらさを反映したものではないかと、新聞記事にはありました。特に子育てをしながらとなると、時間的な制約にとても窮屈さを感じるようになります。そういう情報があふれていること、また大変さを感じてもやりたいと思えるような仕事に就けないということが背景にあるようです。



## ～日本女性会議2012仙台に参加して～

昨年の3・11東日本大震災で被災された方々の話を聞き、想像を絶する自然の力の恐ろしさ、人々の悲しみ・苦しみ、そこから前向きに生きる強さに感動しました。「私達はこの地震を絶対に忘れてはいけない!!」、そして東北の皆さんの“いのち”の叫びを伝え、わが地域への防災に役立つよう努力していかなければならないと思いました。

分科会『復興・防災に女性の声を～出す・ひろう・生かす』では、女性が震災後の生活で不安や困難に感じた事例報告が行われ、また女性の立場でまとめた「男女共同参画の視点から見る防災・災害復興対策に関する提言」は、わが市の防災対策に取り入れていただきたいと思うものでした。そして、「地域を守る使命」を担う女性リーダー、防災アドバイザーの育成が最も大事だと思いました。  
(伊賀市男女共同参画ネットワーク会議会長 大仁田 富美子)

-----

今回の日本女性会議は全国から2100人あまりが参加し、被災地仙台で開催されました。

1日目『女性たちが語る3・11～これまでと今と』では、被災者でありながら避難所を開設し、他の被災者を受け入れた女性たちが、震災後出会った困難や、それにどう立ち向かったかを熱く語ってくださいました。復興は男女平等が不可欠で、地域で女性が意思決定の場に参画する必要性を改めて認識しました。

2日目は分科会『復興・防災に女性の声を～出す・ひろう・生かす』は、復興・防災に女性が参画するための方策を探るお話でした。男女共同参画はあらゆる分野にわたる課題であり、取り組む方法も多種多様。性差を超えた人間の本質、生命の問題に向き合うということが大切であると実感しました。  
(伊賀市男女共同参画ネットワーク会議会員 吉岡 法子)

## 編集・発行

伊賀市人権生活環境部人権政策・男女共同参画課  
〒518-0873 三重県伊賀市上野丸之内 500 番地  
Tel(0595)22-9632 FAX(0595)22-9666  
(平成 25 年 3 月 15 日 発行)

## 編集

伊賀市男女共同参画センター情報紙「きらきら」  
編集スタッフ 岡 久美子・竹山 佐代子・  
宮田 美智子・三山 佳代子

